のびのび若っ子

道のりが困難でもゴールは待っていてくれる

校長　中島　早苗

１０月３日ＷＳＣ(若小スポーツスマイルカップ)を無事に終えることができました。ＷＳＣについて実施の可否を含め、職員で検討を始めたのは休校中の５月にさかのぼります。授業時数の確保や感染防止の観点から多くの行事を中止せざるを得ない中、子ども達の意欲の芽を育み、一体感を味わえる行事として可能な限りの工夫をして実施に向けて準備する方向性を決定しました。

ＷＳＣ前日の準備のことです。校庭で係活動に励む６年生と言葉をかわした中で、

「最後のＷＳＣだけど、本当にやれるのかなあ、と思ってました。だから、明日は、とにかくがんばりたいんです。」と伝えてくれた児童がいました。　６年生だけではありません。１年生から６年生の全てが、与えられた条件の中で最大限の力を発揮しようとしていました。子どもが中心となり、成長する場となったＷＳＣ。保護者の方、地域の方、近隣の方のご理解とご協力があってこそのものでした。ありがとうございました。

子ども達がＷＳＣ終了後、さっそく使っている、かわいいイラストの入った参加賞のエコバッグは、ＰＴＡ役員の皆様が、子どもが使え、環境を意識し、喜びそうなものをと検討を重ねて用意してくださったものです。また、若葉台連合自治会、単位自治会の皆様には、暑い場合の児童席のテント貸し出しのために、温かいご支援をいただきました。３日前、気象庁や気象情報会社数社の当日の気温の予測状況から判断し、テント設営は見送りましたが、改めて感謝申し上げます。

さて、先日の朝会で、全国の読書週間と若葉台小学校の読書月間について話をしました。１１月３日、文化の日をはさんでの２週間、１０月２７日から１１月９日は読書週間です。この読書週間は、１９４７年、終戦から２年後の年に始まりました。戦争の傷跡がまだ残るこの時期、生活をすることに精一杯で、本を読む状況ではないと想像できるが、ある人は生き方を求め、ある人は希望を見出すために本を読むことを求めたのではないかと話しました。「ラストページまで駆け抜けて」今年の読書週間のキャッチフレーズです。このキャッチフレーズには「物語に引き込まれラストまで駆け抜ける。早く走りぬけても、のんびり歩いても。本は自分のペースで読み進められます。道のりが困難でもゴールは待っていてくれる。あなたを待っている物語がきっとある」という思いがこめられているそうです。「道のりが困難でも」は、この時代、重みのある言葉です。

読書について考えるとき、かつて担任した子ども達が教室で自分で選んだ本を熱中して読む姿やわが子に読み聞かせをしたときに何度読んでも同じページで足をばたつかせ笑った姿がよみがえってきます。しかし、一番思い出されるのは、自分自身が小学生のとき、友達の家で読んだ本や、今は亡き父と年に数回書店に行き、買ってもらった本を畳の上に寝転び読んだときの何ともいえない幸福感、中学年になって学校図書室に入ることができるようになったときの宝の部屋を見つけた、という思いです。１１月、若葉台小学校の読書月間では、様々な取組をします。子ども達が１冊の本に出会える喜びを感じてほしいと願っています。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切にする心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』